

がんの専門薬剤師として複雑化する副作用マネジメントに日々奮闘

Active
no.39

正しい知識がなければ、
治療経過に大きな差が生まれる

2022年4月に専門医療機関連携薬局の認定を取得した大賀薬局 九大病院東門前店（福岡市）は、九州大学病院に隣接し、月平均2,000枚の処方箋を応需しています。その中には約300名のがん患者さんの処方箋が含まれます。同薬局に勤務する汐待加織氏は、2021年1月に「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」の認定を取得し、日々、がん患者さんへの対応に注力しています。がんの専門薬剤師として一つひとつの業務を丁寧に行う汐待氏に、九州大学病院との連携による副作用マネジメントの実際と今後の展望についてお話を伺いました。



大賀薬局
九大病院東門前店（福岡県福岡市）
汐待 加織（しおまち・かおり）氏

Profile

大学卒業後、病院勤務を経て2010年に大賀薬局に入社。九大病院東門前店に配属となる。2013年から九州大学病院薬剤部の薬業連携の研修会に参加し、がん薬物療法における副作用マネジメントについての指導を受けるなどして研鑽を積む。2021年1月、地域薬学ケア専門薬剤師（がん）の認定を取得し現在に至る。

九州大学病院薬剤部と密な関係を築き、外来がん治療の質の向上を目指す

がんの専門薬剤師になったきっかけをお聞かせください

汐待 大賀薬局に入社して3年目の2013年に、九州大学病院（以下、九大病院）薬剤部が、門前の保険薬局を対象に薬業連携の研修会を開催して下さるようになり、病院薬剤師の先生方からがん治療の副作用マネジメントについてご指導を頂く機会を得ました。当時は、新しい作用機序を持つがん治療薬が発売され、従来の抗がん剤とは異なる副作用も見られるようになり、服薬指導や副作用マネジメントも複雑になり始めていた頃でした。九大病院のがん専門の薬剤師の先生方から

直接ご指導を頂く中で、「保険薬局側でもきちんとした正しい知識を持って患者さんに対応しなくては治療経過に大きな差が生まれてしまう」と感じたことがきっかけで、日本医療薬学会の「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」の認定取得を目指しました。

がんの治療支援を行う中で、汐待先生ご自身の気づきや変わってきたと思われるところはどのようなことでしょうか。

汐待 現在、日本医療薬学会の地域薬学ケア専門薬剤師（がん）の暫定認定を受け、2021年の4月から5年間

の連携研修で、九大病院薬剤部にお世話になっています。薬剤ごとの副作用や、点滴の治療についても理解している必要があることなど、保険薬剤師にとっては難しいことではありますが、九大病院の先生方のご指導を頂きながら進めています。また、九大病院では2021年2月から連携充実加算の算定が開始されており、点滴を含むがん治療をおこなっている方には、病院薬剤師が患者さんに治療内容や副作用の状況などについて記載した情報提供書を渡し、患者さんが封書で保険薬局に持参されます。その内容をもとに、薬局薬剤師が服薬指導やテレフォンフォローを行い、必要に応じてトレーシングレポートなどで病院へ情報提供を行ない、特定薬剤管理指導加算2を算定します（図1：トレーシングレポート）。おかげさまでより良い薬業連携ができるようになってきていると感じています。

実際に九大病院薬剤部との連携はどのように行われているのでしょうか。

■ 図1) 大賀薬局トレーシングレポート

(別紙様式1)	
患者の服薬状況等に係る情報提供書	
〇〇病院 〇〇科 〇〇〇〇先生御侍史	大賀薬局 九大東門前店 福岡県福岡市東区高出2丁目2-4 電話 092-642-1702 (FAX) 0120-43-8959 保険薬剤師氏名
令和4年04月05日	
患者氏名 性別 住所 電話番号	
処方箋発行日	調剤日
情報提供書の概要	
1 処方薬の情報	
2 併用薬剤等（一般用医薬品、医薬部外品、いわゆる健康食品を含む。）の情報	
3 処方薬の服薬状況（アドヒアランス）及びそれに対する指導に関する情報	
4 患者、家族又は介護者からの情報（副作用のおそれがある症状及び薬剤服用に係る意向等）	
5 薬剤に関する提案	
6 その他	

汐待 日本医療薬学会の地域薬学ケア専門薬剤師（がん）の連携研修で、薬剤部の指導薬剤師の先生とは毎週面談させていただいており、業務中に疑問に思った点や、わからないことは、丁寧に指導頂いております。また、急ぎの用件は外来化学療法室に直接お電話させて頂いております。特に急ぐ必要のない場合は、医師にトレーシングレポートで報告しています。九大病院では薬剤部の先生がトレーシングレポートを仲介して下さるので、「医師が必要とする情報がどのようなものか」「今後どの点に注意しながらフォローを行っていくと良いか」など、お返事を記入し返送いただけます。例えば、発熱に対しての返答で「それは支持療法の注射による発熱なので一過性の可能性が高いですよ」などとご指導頂く場合もあり、たったA4一枚のトレーシングレポートですが、双方の思いが込められたものとなっています。九大病院の先生方とは顔の見える関係を築くことができていると感じています。

九大病院では2015年から処方箋に検査値が記載されるようになっていました。それはがん患者さんの治療支援にどのように役立っているのでしょうか。

汐待 がん患者さんを含むご来局の方の検査値を確認することは必須で、薬剤の用量が適正かなどを確認する場合に役立っています。添付文書上の用量を知ることはできますが、その方の腎機能、肝機能、治療歴、副作用歴などがわかっていないと、なぜその用量で処方されているのかを理解することができません。レジメンで投与量の減量がある場合、薬剤の投与間隔が標準的なものと違う場合などの理解に役立っていると感じます。

副作用が起こりやすいタイミング、ワクチン接種の時期など患者フォローは臨機応変に

テレフォンフォローは実際にはどのように行われているのでしょうか。

汐待 点滴を含むがん治療を行なっている患者さんについては、病院薬剤部が患者さんに渡して保険薬局に

持参される情報提供書を薬局に封書で持参されることが多く、次回の受診までの間に薬局薬剤師から電話フォローをして病院薬剤部へ情報提供書の返信を送ることになります。

患者さん毎にお電話をする時期はさまざまです。薬

剤ごとに発現しやすい副作用や時期があるため、タイミングを見てお電話をします。初回・2回目の治療で多い副作用もあれば、コースが進むにつれて重症化するものもあります。あらかじめ患者さんに副作用がおりやすい時期をお伝えして、次の受診までにお電話をします。副作用の状況を確認させていただき、必要に応じて支持療法のご提案をするなどして、次回以降の治療につなげていきます。患者さんの状況に合わせて、臨機応変に電話をして対応しています。

具体的な副作用フォローの介入例にはどんな症例がありますか。

汐待 皮疹への対応で出されたステロイドのランクアップの提案などがあります。ガイドラインで提示されているものよりも弱いステロイドが出されたときに、トレーニングレポートでご提案します。電話フォローでは、便秘でお困りの方で、5日間くらい排便がなく、近くのかかりつけ医を受診して出された薬を飲んだところ下痢に転じたという患者さんがおられました。お電話で「かかりつけの先生からもらっている薬はやめてください」とお話し、次の日にもお電話をするなどしてフォローを続けた結果、経過は良くなり、患者さんにも喜んで頂けました。このときは、おそらくかかりつけで出された薬の効きすぎによる下痢だろうと推測しましたが、下痢がおこるということは感染症の可能性もあり、慎重なフォローが必要と考えています。

電話フォローが重篤な副作用の発見につながったという方もありました。経口抗がん剤で治療中の方で、定期的な電話フォローでお電話をしたときに、4日前から38度以上の発熱があること、皮膚に赤味と軽いじんましんのような症状があること、また、軟便・血便があり、のどの痛みと息苦しさが発現していること、皮膚症状はだんだんひどくなり、体中が赤く腫れてむくんだような状態でかゆみがあること、唇が腫れて、口内炎もあることなどを聴取しました。厚労省の『重篤副作用疾患別対応マニュアル』も参考にして、緊急の状況と判断し、病院に連絡しました。スティーブンス・ジョンソン症候群の診断で、緊急入院となりました。ご退院後に、ステロイドパルス療法後のステロイド漸減の処方でも来局され、そ

の後は副作用も見られず治療終了となりました。

患者さんからお電話を頂いたというケースでは、「口内炎ができてしまったのですが市販の薬を買っていいですか」というご相談を受けたことがあります。口内炎もできている場所によっては対応が違い、「口角炎」とご本人が言われたとしてもヘルペスの可能性もあるため、症状の聞き取りをきちんとおこなった上で市販薬のご紹介をすることが必要と感じています。

副作用マネジメントで他にも特に気を付けていることがありましたらお聞かせください。

汐待 糖尿病を基礎疾患にお持ちのがん患者さんでは、化学療法による悪心・嘔吐・下痢などの症状や食欲不振はシックデイにあたり、抗がん剤の副作用マネジメントだけでなく、糖尿病の治療にも注意を払う必要があります。糖尿病の治療薬にはシックデイ時は休薬・減量する必要がある薬があります。低血糖や乳酸アシドーシスなどの重大な副作用予防のためにも、適切な薬剤調整のために、医師との連携や、患者さんが医師から受けている指導を確認しておくことが重要です。

コロナ禍で不安になっておられるがん患者さんへ特に気を付けていることは何でしょうか。

汐待 感染症予防についての指導も重要ですが、コロナ禍で一番多かったのはワクチン接種についてのご相談でした。ワクチンの接種予約は患者さんご本人が行わなければならない、化学療法中は、ワクチン接種の時期も医師との調整が必要な場合があります。接種時期の確認はもちろんですが、接種後の副反応に対する対処として解熱鎮痛剤の使用についての指導も重要です。

新型コロナワクチン接種		
	接種タイミング	可能であれば避ける時期
細胞傷害性抗腫瘍薬	明確なデータなし	・細胞傷害性抗腫瘍薬投与日（制吐剤として使用されるステロイドによるワクチン効果減弱の可能性） ・細胞傷害性抗腫瘍薬による骨髄抑制のため白血球数が最小になる時期（ワクチン効果減弱の可能性） ・血小板減少を伴うレジメンでの血小板減少時期（筋肉注射による血腫のリスクを避けるため） ・細胞傷害性抗腫瘍薬投与予定日前の2,3日以内（ワクチン接種後2,3日は発熱を認めることがあるため）
分子標的薬	ワクチン接種を避けるべき時期は特に想定されない	特になし
免疫チェックポイント阻害薬	ワクチン接種の効果や安全性は接種のタイミングには左右されにくいと想定	免疫チェックポイント阻害薬投与予定日前の2,3日以内（ワクチン接種後2,3日は発熱を認めることがあるため）

図2) 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会（3学会合同作成）
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とがん診療についてQ&A
-患者さんと医療従事者向けワクチン編第1版-より抜粋

発熱した場合、化学療法の副作用である発熱性好中球減少症の可能性もあり、注意が必要です。発熱がワクチンによるものかを不安に思われる方もいらっしゃるので、電話フォローの回数を増やして対応しています。

日本癌治療学会、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会の3学会合同で作成された『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とがん診療についてQ & A』も参考にしています（図2）。

日々がトレーニング、その先にあるがんの専門薬剤師の役割

日々の業務の中で地域薬学ケア専門薬剤師（がん）の認定の更新は大変ではないですか。

汐待 大変ではありますが、日々、患者さんに対応している中で進めています。患者さんのお話の中に問題点があり、薬剤師としてのアセスメントにつながります。認定の更新には、症例報告・学会発表・5年間の病院との連携研修など、要件は多いですが、「患者さんから聴き取ったお話をもとにアセスメントする」「問題点を抽出する」「仮説を立てる」「提案する」「アウトカム改善につなげる」という一連の流れを繰り返すことで、臨床研究をおこなう上での疑問点が出てきて、学会発表や症例報告にもつながると考えています。日々の業務を丁寧に繰り返すことに尽きますが、それが難しいところでもあります。日々の業務がトレーニング

で、地域薬学ケア専門薬剤師（がん）の認定更新に繋がるのだと思います。

今後の方向性や目標をお聞かせください。

汐待 免疫チェックポイント阻害薬のように継続したマネジメントが必要な薬剤が増えてくると思います。今後も、がん治療中の方だけでなく、術後や化学療法後の患者さんへの長期的なフォローにも注力したいと思います。また、専門医療機関連携薬局として、がん治療のマネジメントに慣れていない地域の薬局への情報提供を進めていく必要があると思います。治療が困難になって在宅療養へ移行する患者様へのフォロー体制も、構築してゆく必要があると考えています。